

第三国定住による難民の受入れ事業の在り方に係る検討会（第3回）
議事要旨

日時：令和8年5月27日（水）13:30-15:30

場所：中央合同庁舎第8号館共用会議室C

1. 議事

- (1) 今後の検討の方向性について
- (2) 第三国定住難民受入れに関する関係者ヒアリング
- (3) 質疑応答

2. 配布資料

資料1 千葉市資料

資料2 草加商工会議所資料

3. 議事内容

○議事（1）について、有識者構成員の意見の概要は以下のとおり。

- ・中長期的に第三国定住難民にどうあってほしいのかという点があはっきりしない印象がある。第三国定住難民は、就労目的で我が国に来る外国人とは質的に異なる面があり、我が国社会に定着することが想定されていることを念頭において、相談、支援、在留に関する要件の検討に当たるべきではないか。
- ・日本語教育について、定住支援プログラムの内容を外部の視点を入れて点検することを含め、同プログラムの質・量の充実を図るべきではないか。目標を定めて、バックキャストする視点から、日本語教育について中長期的な議論をすべきではないか。地方自治体が実施する夜間中学や地域日本語教育、その他雇用企業などとも連携するとともに、就労のための日本語を学ぶ機会も確保すべきではないか。登録日本語教員、難民の特性を理解する者等を活用すべきではないか。
- ・定住支援について、国（委託先のRHQ）と受け入れた難民の間だけで行おうとするのではなく、各地域において、地方自治体、教育機関、NGO等が提供している多文化共生の取組と連携すべきではないか。また、地域住民と交流する機会も確保すべきではないか。学習支援については、長期的な視点で見守ることが重要と考えられる。
- ・スキルレベルが高く、日本語能力のみがボトルネックになっているケースに対する就労支援も議論すべきではないか。
- ・受け入れた難民の修学状況、進学状況、職業、収入をはじめとする生活状況等を把握して分析し、必要に応じて公表することも考えられるのではないか。
- ・子どもやひとり親、性的少数者など、より脆弱性の強い人たちを受け入れるこ

とも考えられるのではないか。

○議事（２）について、千葉市、草加商工会議所、前田鐵鋼株式会社よりヒアリング（資料１及び２）。

○議事（３）について、有識者構成員の質疑・意見の概要は以下のとおり。

- ・外国人の受入れに当たっては、入国直後の対応が重要であるという知見が近時強調されている中、千葉市のアクションプランは時宜にかなっているという印象を受けた。
- ・草加商工会議所が想定している近隣商工会議所との連携について、県レベルの商工会議所連合会のサポートを前提とするものなのか、それとも個別の商工会議所間のみでの連携を前提とするものなのか。
- ・草加商工会議所の取組は先進的であるが、キーパーソンがいたことによるところが大きいものと思われる。役員が所属する企業で対応したとのことであるので、傘下の企業にもう少し広く展開していくことやそのための手法を検討することも重要と思われる。企業等が現地に赴いて面接をするなどの新たな取り組みができると魅力的であると感じられた。
- ・入社後のキャリア支援や日本語教育支援についても、行政、企業、商工会議所等が知恵を絞って充実させていけば、より強力な受入れモデルができるのではないかと思われる。

以上